

第 589 回：論文やレポートの書き方について（4）（DM）

みなさんこんにちは。LA 毎週月曜 12:00~15:00 担当、博士課程 2 年の DM です。

今回は、少し前の回（第 583 回）で説明した手順に従えば、資料調査についてお伝えすべきところですが、もう少しだけ、問題設定について説明していきたいと思います。

みなさんご存じのように、論文やレポートを作成するという作業は、真面目に取り組むとなれば、なかなか大変な作業です。授業課題のレポートだったとしても、作業には、それなりの時間がかかります。

この連載の中で、私は、論文やレポートを作成する方法は単純だと言いました。とはいえ、方法は単純でも、実践するのは大変です。残念ながら、この大変さを崩すことはできません。

「それなら、単純なところと大変なところ、どちらも伝えなきゃダメじゃないか!」、——というわけで、今回からは、書き方の説明を補足する目的で、私が実際にこの連載を通じて一本のレポートを作成していくことにいたします。単に方法を紹介するだけでなく、実践するとどうなるか、実演してみよう、というわけですね。

この連載はゼミでも授業でもありませんから、レポートの題材だけは、私の独断で選ばせていただきました。方法が有効であることを示すために、あえて、私があまり知らない分野から選ぶことにしました。

結果的に、レポートの題材には、谷崎潤一郎の『文章読本』を選びました。選んだ理由は、1)「われわれ日本人が日本語の文章を書く心得」（谷崎 2016: 111）を記したという『文章読本』という本が、外国語を学ぶ我々外大生に有用であると思われたから、2) 私はあくまでもロシア文学が専門で、日本文学は専門ではないから、3) 私が谷崎潤一郎のことをよく知らないから、です。

題材はこれでいいとして、次はテーマ決めです。

「谷崎潤一郎の『文章読本』について」？ いや、これじゃあ曖昧過ぎます。テーマを「なるべく具体的に、なるべく限定的な形」にすべきだと宣言した以上（第 587 回参照）、私はそれを実践しなければいけないのです！

こういうときは、——特に、テキストを題材に扱う場合は、——文章内に頻出する言葉や、明らかに重要な言葉から、テーマを選んでいくのが定石です。

「読本」を読みながら、私は、「せっかくなら、この本の核心を掴むような単語をテーマにしたいぞ」、などと考えていました。すると、「含蓄じようぜつと云いますのは、（……）「饒舌じようぜつを慎むこと」がそれに当ります。（……）この読本は始めから終わりまで、ほとんど含蓄の一事を説いているのだと申してもよいのであります」

（谷崎 2016: 319-320）という文章が見つかったのです。

「じゃあ、「含蓄」は重要に違いない」、——私はそう決めこんで、テーマを「谷崎潤一郎の『文章読本』における「含蓄」について」にしたのでした。実に安直！

果たして私は、どのように「含蓄」から問題設定をして、どのように資料調査へと移っていくべきなのでしょう？

というわけで、今回の LA 通信はここまでです。今回は、問題設定の実践をして、余裕があれば、資料調査の説明に移りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

参考文献

谷崎、潤一郎（2016）「文章読本」『陰翳礼讃・文章読本』（新潮文庫）新潮社（外大図書館には、2025 年 7 月現在、全集版や、中公文庫版の「文章読本」が所蔵されています。この連載では、引用する際の仮名遣いの事情で、新潮文庫版を選びました。）